

どう生きればいいのか？

人が健康でいるために
あらゆる観点から研究をし続けた
丸山先生が
今あなたに贈るメッセージ！

Vol.10からの続きです



丸山アレルギークリニック理事長

丸山 修寛

※十言神呪 読み:ことのかじり



神と直に繋がる、通じ合う

誰か他の人を介してではなく、神と自分が直接繋がる時代がきた。

十言神呪を唱えると、誰がやっても一瞬で神と繋がる。時空が変化し風が吹く。身体の中で鈴が鳴る。

神々は十言(十音)の響きと共に現れ、この世、この身を調和する。



私たちが繋がる神とは自分自身

私たちが十言神呪の神々の導きによって繋がる神とは、自分自身のことである。

この自分自身とは、神の如き、無条件の愛の意識そのものとなった「自分」である。この「自分」とは、永遠に生き続ける自分という意識の窮屈の意識なのである。



全ての人は神、または、神に連なるもの

全ての人は神、または神に連なるものであることは、法絲帖に次のように書かれている。

『汝ら生きとし生ける者達よ 汝らは悉くわが神の裔なり 汝らをおきて 神の栄を嗣ぐものは 虚空に一つもなきなり』。今度は診療中に、天からポンと、『お前は神の中で生きている。お前が生きているのは世界という名の神の中だ。お前が世界と思っているものは神なんだ。その神の中で生きるお前も神だ。』というメッセージが届いた。

二つ目のメッセージかもしれない。

人が生きている世界は神そのもの



三つのメッセージ

十言神呪の神々によって、次々と明かされていく真実。これを伝えていかなければならぬという思いは、日増しに強くなっている。そんな時、三つのメッセージが届いた。

『お前は世界を持ち歩いている。』

という言葉だった。人は一人一人、全く違った人生を送る。双生児でも夫婦でも、世界を共有することはできるが、全く同じ世界を生きることは出来ない。人がAという場所を体験する。Bという場所に行くと、Bという場所に現れる。

景色、人、物を体験する。自分が何処に行っても、何かしらの世界は常に自分の目の前にある。自分が見る世界とは、本当は自分が持ち歩いているものなのだ。

『お前は世界を持ち歩いている』というメッセージは、一人一人が違う世界に生きていることを示しているのかもしれない。



神ここに生きたまうなり

神があなたを生きている。神があなたを通して、神自らが創造した世界を体験する。人の本質は神であるが、あなたはこの世の体験を通じて、自分の中に本当の自分=神を見出だすのだ。

今、これが自分だと思っている自分が、唯一の自分だと思っていました。しかし、十言神呪を読んでいくうちに、この自分と思っている自分(意識)以外にも自分がいることが分かってきました。

三次元世界(現世)で、様々な体験をするために身体があります。身体は現世を旅するための舟のようなものです。そして、この舟(身体)に乗っている自分がいます。この舟と、それに乗っている自分を、通常の自分だと思っています。この瞬間に同時に通常の自分以外の自分が存在します。

次号へつづく…

丸ちゃん通信 VOL. 11 (2021年11月15日発行)

◎発行：丸山 修寛 ◎問い合わせ先：info@maruyamanobuhiro.com

◎編集・送付元：株式会社ユニカ

※この案内は株式会社ユニカでダイレクトメール送付希望登録されているお客様へもお送りしています。

※配信停止を希望される方は、上記アドレスまでご連絡をお願いします。

大好評の
DVD・音声教材は
こちらの
QRコードから



幸せになる情報マガジン

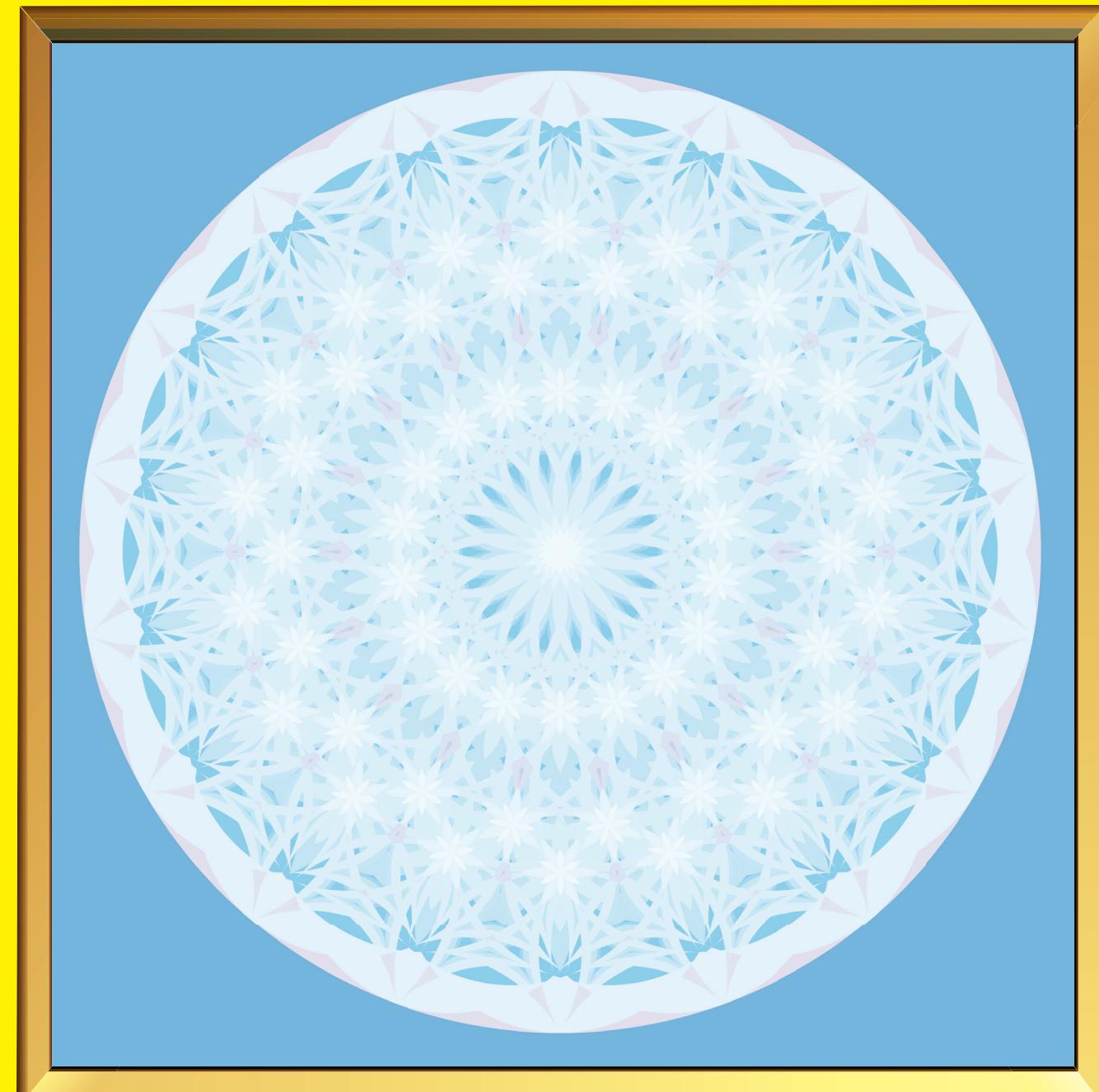
丸ちゃん通信 vol. 11

2021年11月発行

丸山修寛の呪さ



丸山先生からの
最新情報を
更新中♪



今回のクスリ絵 レースクイーン

あらゆる不快、不調をとるクスリ絵で、額に入れても、身体に貼ってもいいものです。

この世界の形あるものの源であり、すべての生命にある創造パターンであるフラワーオブライフから創られたため効果は抜群です。

クスリ絵®とは

眺める・触れるだけで体の不調が消え、運気が上がる「クスリ絵」は、医師・丸山修寛が研究・開発したオリジナルのアート。

神聖幾何学、数字、パワーを持つ形によって描かれた「クスリ絵」は、生命エネルギーの調整や人間が持つ自然治癒力、潜在能力を引き出すのに最適な形や色でつくられたものです。

※このクスリ絵は切り取って飾ったりファイルしたりしてもご使用いただけます。

OPEN

誰か他の人を介してではなく、神と自分が直接繋がる時代がきた。神々は十言の響きと共に現れ、この世、この身を調和する。

大きいなる存在からのメッセージ

僕たちは神様の見える部分

私の左肩付近から背中にかけていらっしゃる神様は目に見えない存在である。そのため私は目に見えない存在が神で、目に見える僕たちは神ではないのだと思い込んでいた。しかし、どうも違うらしい。実は、僕たちは神さまの目に見える部分であるらしいのだ。そして、神様の見える部分である自分たちにも、自分が体験する世界を創造したり、創造しなおす力があることがわかつた。

なぜなら、僕たちはなんてったって神様の見える部分というだけで、やはり神様なのだから。そのことに気づいて、左肩付近にいる見えない神様に、声掛けしていくと以前よりも左肩付近にいらっしゃる神様と親密な関係になれるような気がする。そして、自分が困った時、この左肩付近の神様に人間としてではなく、神様の見える部分としてお願い事をすると願いが叶いやすくなる。

意識がシフトすると

左肩にいる神様に『愛しています。ありがとうございます。許してください。』と言い続いていると、自分の意識が左肩の神様がいるあたりにどんどん引き寄せられていく感じがした。そして、自分の意識が神様のおられるあたりに完全にシフトすると、その位置から自分の身体を見ているような気持ちになる。もう一人の自分が、今の自分を背中の方から見ているような感じだ。例えるなら、まるで、二人羽織の後ろの人が前の人を見ているような感じである。そのまましばらく自分の意識を神様がいる位置に置いておくと、自分の身体をそこ(身体の左やや後ろで神様がいる場所)から動かしているかのような妙な感じがした。

この感覚は、ズッと前(昔)に経験したことがある。私がよちよち歩きをし始めた赤ちゃんの頃、この赤ちゃんの身体を自分が後ろからリモコンで操縦する(赤ちゃんの身体と赤ちゃんを動かしている意識は魂の緒のようなものでしつかりとつながっている。それは無線のリモコンができる前にはやっていた有線でつながっているリモコンのおもちゃとリモコンを動かす子供との関係に似ている。)かのように動かしていた記憶だ。赤ちゃんの身体を操縦し始めた最初の頃は、自分の意識でうまく赤ちゃんの身体を操縦することができず何度も転ばてしまった覚えがある。しばらくすると赤ちゃんの身体をうまく操縦することに慣れてきた。このころは、赤ちゃんの身体と赤ちゃんを動かしている意識は別だと思っていたような気がする。ところが、赤ちゃんの身体を自分の意識で自由自在に動かせるようになると、自分が赤ちゃんの身体の左やや後ろにいたことをすっかり忘れててしまったのだ。

最近になって、自分の意識を神様のおられるあたりにシフトできるようになってからは、徐々に、そのことを思い出しはじめたが、これは僕だけの妄想かもしれない。

光の クスリ絵展 開催レポート

10月2日~10月6日まで、せんだいメディアテークでクリエイティブアート展を開催しました。600名の方にご来場いただき感謝します。会場の様子をお伝えしたいと思います!!

